

様々な災害対策に思う

高橋 公浩

株式会社開発工営社 代表取締役社長



先日、防災に関する目新しいニュースがありました。NASA が、太陽系の小さな天体に探査機を衝突させ、その軌道を変えることができるか実験したというニュースです。小惑星「ディディモス (Didymos)」の周りを公転する直径 170m と推定される衛星「ディモルフオス (Dimorphos)」に冷蔵庫大の探査機「DART」を衝突させ、その結果ディモルフオスの軌道周期を、11 時間 55 分から 11 時間 23 分と 32 分の短縮させることに成功したというものです。今から約 6,500 万年前に直径 10 km ほどの隕石が地球を襲い、恐竜が絶滅したとされますが、めったに起きないこのような現象に対し、多くの予算をかけて災害が起きないように研究が進められていることに驚きました。

もっと身近なところでは、観測史上最大という言葉をよく耳にするようになり、気候温暖化が顕著になっているように思います。そこで昨年は適応策として、室蘭工業大学の中津川 誠教授に「気候変動と流域治水」と題し（株）開発工営社で講演いただきました。これに続いて、今年は緩和策として、北海道大学 北垣亮馬教授に「建設分野におけるカーボンニュートラルを取り巻く近年の技術・制度の状況」と題したご講演をいただくとともに、本誌「NOTE KOEI」に寄稿していただきました。

（株）開発工営社は、今後とも今日的なテーマの研鑽、あたらしい技術の取り組みを続け、社会的ニーズにお応えしてまいります。

おかげさまで、弊社は 16 年連続で北海道開発局優良工事等表彰を頂戴し、さらに開発建設部長表彰、北海道開発局 i-Con 奨励賞、国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所優良業務等表彰をいただくことができました。弊社の成果を評価いただいたことに心から感謝申し上げますとともに、今後とも発注者のみなさまの良きパートナーであり続けるよう努めてまいります。

今後とも（株）開発工営社をご愛顧くださいますよう、お願い申し上げます。